

文芸上・映像上の  
人造人間・ロボット・アンドロイド  
・サイボーグ

前編

佐々木 隆

# 総合目次

## 前編

### はじめに

第1章	ロボットの時代	1
	(1) 人造人間・ロボットへの憧れ	1
	(2) ロボットの時代を迎えて	2
	(3) ロボット200年を超えて	5
第2章	定義としてのロボットを考える	7
	(1) 「科学」・「文学」とは何か	7
	(2) 用語の整理	8
	[1] ロボットのイメージ	8
	[2] 「ロボット」とは何か	10
	[3] オートマトン	29
	[4] 人造人間	35
	[5] アンドロイド	36
	[6] サイボーグ	42
	[7] その他	48
	[8] SFとロボット・サイボーグの研究	50
	① SFと人造人間・ロボット	51
	② Julian Offray de La Mettrie. <i>Man a Machine</i> (1747)	56
	③ John Desmond Bernal. <i>The World,         the Flesh and the Devil</i> (1929)	64
	④ Nobert Wiener. <i>Cybernetics: Or         Control and Communication in the         Animal and the Machine</i> (1948)／	

	<i>The Human Use of Human Beings: Cybernetics and Society</i> (1950)	7 3
5	D.S.Halacy, Jr. <i>Cyborg: The Evolution of the Superman</i> (1965)	8 1
6	福島正実編『SF 入門』(1965)	8 3
7	筒井康隆編『SF 教室』(1971)	8 6
8	Philip K. Dick “Man, Android, and Machine” (1975)	9 0
9	Patricia S. Warrick. <i>The Cybernetic Imagination in Science Fiction</i> (1980)	9 2
10	米沢嘉博『戦後 SF マンガ史』 (1980)	1 0 1
11	石原藤夫『SF ロボット学入門』 (1981)	1 0 3
12	小松左京『小松左京の SF セミナー』 (1982)	1 0 5
13	David Wingrave, editor. <i>The Science Fiction Source Book</i> (1984)	1 0 8
14	Donna J. Haraway. “A Cyborg Manifesto: Science, Technology, and Socialist-Feminism in the Late Twentieth Century”(1984)	1 1 2
15	Issac Asimov and Karen A. Frankel. <i>ROBOTS, Machines in Man's Image</i> (1985)	1 1 4
16	Chris Hables Gray, editor. <i>The Cyborg Handbook</i> (1995)	1 2 0
17	永瀬唯『肉体のスートピア』(1996)	1 2 1
18	遠藤徹『ポスト・ヒューマン・ボディ』	

ーズ』(1998)	1 2 8
19 N. Katherine Hayles. <i>How We Became Posthuman</i> (1999)	1 3 1
20 巽孝之編『日本SF論争史』(2000)	1 3 5
21 野田昌宏『図説ロボット』(2000)	1 3 7
22 築地達郎+京都経済新聞社取材班 『ロボットだって恋をする』(2001)	1 4 2
23 館璋『ロボット入門』(2002)	1 4 6
24 Bruce Grenville, editor. <i>The Uncanny: Experiments in Cyborg Culture</i> (2003)	1 5 1
25 瀬名秀明編著『ロボット・オペラ』 (2004)	1 5 4
26 馬場伸彦編『ロボットの文化誌』 (2004)	1 5 9
27 梶田秀司編著『ヒューマノイドロボット』(2005)	1 6 2
28 中山眞『ロボットが日本を救う』 (2006)	1 6 5
29 小松左京監修/瀬名秀明編『サイエンス・イマジネーション』(2008)	1 6 8
30 石黒浩『ロボットとは何か一人の心を映す鏡』(2009)	1 7 1
31 岩田倫典「ロボット一族の展開」 (2011)	1 7 5
32 西山禎泰「日本におけるロボットの 変遷と表現との関係」(2011)	1 7 6
33 森瀬繚監修/クロノスケープ『ゲームシナリオのためのSF事典』 (2011)	1 8 4

34	限界研編『ポストヒューマニティーズ』(2013)	188
35	Dan Roberts. <i>Famous Robots &amp; Cyborgs</i> (2013)	196
36	Emily Anthes. <i>Frankenstein's Cat</i> (2013)	197
37	Despina Kakudaki. <i>Anatomy of a Robot</i> (2014)	203
38	森政弘『ロボット考学と人間』(2014)	208
39	久保明教『ロボットの人類学』(2015)	212
40	柴田崇「サイボーグの原型：“extension”の系譜学に基づくJ.D.パナールの読解」(2015)	215
41	小澤京子「人造美女の系譜学 ポストヒューマン的テクノロジーのジェンダー化をめぐる文化的想像力」(2015)	218
42	稲見昌彦『スーパーヒューマン誕生!』(2016)	220
43	北島明弘監修『SF大クロニクル』(2016)	230
44	根村直美『ポストヒューマン・エシックス序説』(2017)	234
45	中嶋秀明『ロボット—それは人類の敵か、味方か』(2018)	237
46	Jason Porterfield. <i>Robots, Cyborgs, and Androids</i> (2019)	246
[9]	文芸上の日本のロボット	249
1	「文芸」とは	249

2	近代日本から戦前まで	250
3	戦後から1960年代の日本のサイボーグ・マンガ	260
4	田河水泡・海野十三から手塚治虫へ	266
5	科学小説集とSF雑誌創刊	268
[10]	文芸上の日本のロボット研究	269
1	米沢嘉博『戦後SFマンガ史』(1980)	269
2	朝日ソノラマ編『TVアニメ史 ロトアニメ編』(1981)	271
3	小松左京『小松左京のSFセミナー』(1982)	276
4	井上晴樹『日本ロボット創世記 1920-1938』(1993) / 井上晴樹『日本ロボット戦争記 1939-1945』(2007)	277
5	安積邦編『ロボットヒーロー鋼鉄列伝』(1994)	279
6	長谷川裕一『すごい科学で守ります!』(1998)	281
7	鹿野司『巨大ロボット誕生』(1998)	283
8	谷崎あきら「特講【ロボ学】『改訂版・巨大ロボットの歴史』(1998)	285
9	瀬戸龍哉・山本敦司『巨大ロボット読本』(1999)	291
10	長谷川裕一『もっとすごい科学で守ります!』(2000)	294
11	浅野智明・川島栄作編『僕たちの好きな巨大ロボット』(別冊宝島860号)(2003)	296

- |    |   |     |
|----|---|-----|
| 12 | 瀬名秀明編著『ロボット・オペラ』<br>(2004)  | 298 |
| 13 | 国際交流基金『おたく：人格＝<br>空間＝都市』(2004)  | 303 |
| 14 | 稲葉振一郎『オタクの遺伝子』(2005)  | 304 |
| 15 | 「遠藤汐『昭和ロボット漫画館』<br>(2005)   | 306 |
| 16 | ササキバラ・ゴウ編『「戦時下」のお<br>たく』(2005)  | 307 |
| 17 | 長谷川裕一『さらにすごい科学で守<br>ります!』(2005)   | 308 |
| 18 | 大澤真幸「オタクという謎」(2006)   | 310 |
| 19 | 日下三蔵『日本SF全集・総解説』<br>(2007)  | 311 |
| 20 | TEAS 事務所/ネタペディア 2010<br>制作委員会編『ロボットアニメ・<br>ネタペディア 2010』(2011)   | 313 |
| 21 | 瀬戸龍哉・山本敦司『スーパーロ<br>ボット読本』(2011)   | 315 |
| 22 | 池田宏・小出正志・横田正夫編<br>『アニメーション事典』(2012)   | 319 |
| 23 | オフィス J.B./旭和則編『戦え!<br>全日本アニメロボ大全集 70～80<br>年代篇』(2012) /オフィス J.B./<br>旭和則編『戦え! 全日本アニメロボ<br>大全集 90年代篇』(2012) /オフ<br>イス J.B./旭和則編『戦え! 全日本<br>アニメロボ大全集 2000年代篇』<br>(2013) | 321 |
| 24 | 『日本アニメーションガイド ロボ  |     |

	ットアニメ編』(2013) / <i>Japanese Animation Guide: The history of Robot Anime</i> (2013)	3 2 2
25	山田夏樹『ロボットと<日本>』(2013)	3 2 9
26	高槻真樹『戦前日本 SF 映画創世記』(2014)	3 3 1
27	紀田順一郎協力/講談社編『大伴昌司<<SF・怪獣・妖怪>>秘蔵大図解』(2014)	3 3 5
28	長山靖生『日本 SF 精神史 [完全版]』(2018)	3 3 6
29	佐々木隆『ロボット 100 年—文学・マンガ・アニメ・映像—』(2018)	3 3 8
30	佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係』(2018)	3 3 9
31	佐々木隆『文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』(2019)	3 4 1
32	足立加勇『日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象』(2019)	3 4 2
33	佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』(2019)	3 4 6
34	池田大臣他編『巨大ロボットの社会学』(2019)	3 4 7
35	佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』(2020)	3 5 2
	注	3 5 3

.....



中編

第3章 文学・マンガ・アニメ・映像上の人造人間・ロボット・ アンドロイド・サイボーグ (1989年まで)	380
(1) ホメロス『イーリアス』(BC.8世紀)	383
(2) アポロニオス『アルゴナウティカ』 (BC.3世紀)	386
(3) オヴィディウス『メタモノフォーゼ』 (『転身物語』)(BC1世紀～AD1世紀)	387
(4) 列禦寇『列子』(BC.400年頃)	390
(5) 『今昔物語集』(1110～1124)	394
(6) 西行法師『撰集抄』(1183)	395
(7) ゴーレム伝説 (16世紀)	397
(8) ゲーテ『ファウスト』(1808)	400
(9) ホフマン『砂男』(1816)	402
(10) メアリー・シェリー『フランケンシ ュタイン』(1818)	406
(11) エドガー・アラン・ポー『シェヘラザ ーデの千二夜物語』(1845)	411
(12) レオ・ドリーブ作曲『コッペリア』 (1870, バレエ初演)	412
(13) カルロ・コロデー『ピノッキオの 冒険』(1883)	413
(14) ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』 (1886)	415
(15) ルイス・P・セナレンズ他『フランク・ リード』シリーズ (1891～1898)	419
(16) アンビローズ・ピアス『モスクンの人 形』(1893)	420
(17) アーサー・マッケン『怪奇クラブ』	

(1895)	4 2 0
(18) L・フランク・バウム『オズの魔法使い』(1900)	4 2 1
(19) ハリー・グロスマン、バートン・L・キング監督『人間タンク』(1919, 映画)	4 2 3
(20) カレル・チャペック『R.U.R.』(1920)	4 2 3
(21) 賀川豊彦『空中征服』(1922)	4 3 5
(22) カレル・チャペック／宇賀伊津緒訳／土方与志演出『人造人間』(1924, 日本初演)	4 3 6
(23) 国枝史郎「人間製造」(1924)	4 3 8
(24) フリッツ・ラング監督『メトロポリス』(1926, 映画)	4 4 0
(25) 平林初之輔「人造人間」(1928)	4 4 2
(26) 高田義一郎「人造人間」(1928)	4 4 3
(27) 田河水泡「滑稽諧謔超科学的 人造人間」(1929, マンガ)	4 4 4
(28) 江戸川乱歩「押絵と旅する男」(1929)	4 4 5
(29) 川端康成「人造人間譚」(1929)	4 4 7
(30) 水島爾保布「人造人間時代」(1929)	4 4 9
(31) 直木三十五「ロボットとベッドの重量」(1931)	4 5 0
(32) 川端康成「水晶幻想」(1931)	4 5 2
(33) 北園克衛「レグホン博士のロボット」(1932)	4 5 3
(34) ルイ・フリードランダー監督『殺人事件』(1934, 映画)	4 5 4
(35) オットー・ブローワ、B・リーヴス・イーソン監督『五百年後の世界』(1935, 映画)	4 5 5

- (36) B・リーヴス・イーソン、ジョセフ・ケイン監督『海底下の科学戦』(1936) 4 5 5
- (37) 海野十三「機械兵士」(1936) 4 5 6
- (38) 海野十三「人造人間事件」(1936) 4 5 7
- (39) 海野十三「電気鳩」(1937) 4 5 9
- (40) レスター・デル・リイ『愛しのヘレン』(1938) 4 6 1
- (41) 米澤正夫監督『無敵三剣士』(1938, 映画) 4 6 2
- (42) 蘭郁二郎「人造恋愛」(1938) 4 6 3
- (43) 山口哲平監督『鋼鉄人間』(1938, 映画) 4 6 7
- (44) 米澤正夫監督『鉄の爪』(1939, 映画) 4 6 8
- (45) フォード・ビーブ・サウル、A・グッドキング監督『忍び寄る幽鬼／ファントム・クリープス』(1939, 映画) 4 6 9
- (46) 海野十三「人造人間エフ氏」(1939) 4 6 9
- (47) 蘭郁二郎「白金神経の少女」(1939) 4 7 2
- (48) 山内俊英監督『怪電波の戦慄 第一篇 人間タンク出現篇』(1939, 映画) 4 7 4
- (49) ジョン・ワグナー監督『電気人間』(1940, 映画) 4 7 6
- (50) エドモンド・ハミルトン『恐怖の宇宙帝王』(1940) 4 7 6
- (51) 海野十三「人造人間の秘密」(1940) 4 8 5
- (52) 蘭郁二郎「植物人間」(1940) 4 8 6
- (53) 山本嘉次郎監督『孫悟空 前後篇』(1940, 映画) 4 8 9
- (54) 海野十三「特許多腕人間方式」(1941) 4 9 0
- (55) C.L.ムーア「美女ありき」(1944) 4 9 1
- (56) 横井福次郎「ふしぎな国のプッチャー」

(1946, (連載マンガ)	4 9 9
(57) 手塚治虫『火星博士』(1947, マンガ)	4 9 9
(58) 海野十三「金属人間」(1947)	5 0 1
(59) 海野十三「超人間X号」(1948)	5 0 7
(60) 手塚治虫『大空魔王』(1948, マンガ)	5 1 4
(61) 宇野一路『原子力人造人間』(1948, マンガ)	5 1 7
(62) アイザック・アシモフ『われはロボット』(1950)	5 1 8
(63) <i>The Magical Amazing Robot</i> (1950年代 初頭, ボードゲーム)	5 2 8
(64) ロバート・ワイズ監督『地球の静止する日』(1951, 映画)	5 2 9
(65) 手塚治虫「アトム大使」(1951, マン ガ連載開始)	5 3 0
(66) ポール・グリモー監督『やぶにらみの 暴君』(1952, 映画)	5 3 1
(67) バーナード・ウルフ『リムボー』 (1952)	5 3 5
(68) 石川達三「最後の共和国」(1952)	5 3 6
(69) 安部公房「R62号の発明」(1953)	5 4 2
(70) アイザック・アシモフ『鋼鉄都市』 (1954)	5 4 7
(71) 前谷惟光『ロボット三等兵』(1955, マンガ連載開始)	5 5 7
(72) マクラウド・ウィルコックス監督 『禁断の惑星』(1956, 映画)	5 5 7
(73) 桑田二「巨人16号」(1958)	5 5 9
(74) 星新一「人造美人」(1958)	5 5 9
(75) ロバート・A・ハインライン『宇宙の	

戦士』(1959)	560
(76) 獅子文六「ロボッチイヌ」(1959)	566
(77) 手塚治虫原作／吉川博他監督『鉄腕アトム』(1959,TV 放映開始)	569
(78) 手塚治虫「魔人ガロン」(1959)	570
(79) 手塚治虫「鉄腕アトム 火の壺島の巻」(1959, マンガ連載開始)	570
(80) 水木しげる「サイボーグ」(1961, マンガ)	572
(81) 手塚治虫「鉄腕アトム ホットドッグ兵団の巻」(1961, マンガ連載開始)	573
(82) 福島正実原作／石ノ森章太郎作画「勇気くん」(1961, マンガ連載)	574
(83) 横山光輝「鉄人28号 超人間ケリー」(1961, マンガ連載開始)	575
(84) 倉橋由美子「合成美女」(1961)	576
(85) 手塚治虫『鉄腕アトム』(1963, TV 放映開始)	580
(86) 星新一「夜の事件」(1963)	581
(87) 横山光輝『鉄人28号』(1963, TV 放映開始)	583
(88) 平井和正原作／桑田次郎『エイトマン』(1963, TV 放映開始)	585
(89) 桑田次郎「キングロボ」(1963)	586
(90) 『ドクター・フー』(1963,TV 放映開始, イギリス)	588
(91) 星新一「花とひみつ」(1964)	589
(92) 手塚治虫『ビッグX』(1964, TV 放映開始)	590

(93) 星新一「気まぐれロボット」(1964)	591
(94) 石ノ森章太郎『アンドロイドV』 (1964, マンガ連載開始)	592
(95) 星新一「博士とロボット」(1965)	593
(96) 眉村卓「準B級市民」(1965)	595
(97) 星新一「なぞのロボット」(1965)	598
(98) 手塚治虫「鉄腕アトム 青騎士の巻」 (1965, マンガ連載開始)	599
(99) 平井和正原案／桑田次郎作画「超犬 リープ」(1965)	603
(100) アーウィン・アレン原案『宇宙家族ロ ビンソン』(1966-1968, ドラマ)	604
(101) 石森章太郎「金色の目の少女」(1966, マンガ)	604
(102) 安田公義監督『大魔神』(1966)／三 隅研次監督『大魔神怒る』(1966)／ 森一生監督『大魔神逆襲』(1966)	605
(103) 手塚治虫『マグマ大使』(1966, TV 放 映開始)	605
(104) 泉ゆき雄「大マシン」(1967, マンガ 連載開始)	606
(105) 平井和正「アンドロイドお雪」(1967)	607
(106) 『宇宙特撮シリーズ キャプテンウルト ラ』(1967, TV 放映開始)	613
(107) 横山光輝『ジャイアントロボ』(1967, TV 放映開始)	614
(108) 豊田有恒「改体者」(1967)	614
(109) 石森章太郎『サイボーグ009』(1968, TV 放映開始)	616
(110) 松本零士「セクスロイド」(1968, マ	

ンガ連載開始)	6 2 0
(111) 平井和正「ブラック・モンスター」 (1968) / 「サイボーグ・ブルース」 (1968) 「サイボーグ・ブルース」 / 「暗闇への間奏曲」(1969) / 「シンジ ケート・マン」(1969) / 「ゴースト・ イメージ」(1969)	6 2 0
(112) さかいさぶろう原作『妖怪人間ベム』 (1968, 放映開始)	6 2 7
(113) 矢野徹『孤島ひとりぼっち』(1969)	6 2 9
(114) 今日泊亜蘭『アンドロロボット' 99』 (1969)	6 3 1
(115) 小松左京「袋小路」(1970)	6 3 1
(116) 石森章太郎『仮面ライダー』(1971, TV 放映開始)	6 3 3
(117) 石森章太郎『人造人間キカイダー』 (1972, TV 放映開始)	6 4 0
(118) 円谷プロダクション制作『トリプルファ イター』(1972, TV 放映)	6 4 1
(119) 鈴川鉄久原作『アストロガンガー』 (1972, TV 放映開始)	6 4 1
(120) 永井豪『マジンガーZ』(1972, TV 放 映開始)	6 4 2
(121) ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア 「接続された女」(1973)	6 4 4
(122) ハーヴ・ベネット製作総指揮『600 万 ドルと男』(1973, TV 放映開始)	6 5 1
(123) マイケル・クライトン監督『ウエスト ワールド』(1973, 映画)	6 5 2
(124) 横山光輝原作『バビル2世』(1973, TV	

	放映開始)	6 5 3
(125)	黒田義之他監督『ジャンボーグ A』 (1973, TV 放映開始)	6 5 4
(126)	藤子・F・不二雄『ドラえもん』(1973, TV 放映開始)	6 5 6
(127)	石森章太郎原作『ロボット刑事』(1973, 放映開始)	6 5 7
(128)	長島慎二・ひろみプロダクション『ミラ クル少女リミットちゃん』(1973, TV 放 映開始)	6 5 7
(129)	永井豪・ダイナミックプロ『キューテ ィーハニー』(1973, TV 放映開始)	6 5 7
(130)	吉田竜夫・タツノコプロ企画／笹川ひ ろし監督『新造人間キャシャーン』 (1973, TV 放映開始)	6 5 8
(131)	田辺聖子「愛のロボット」(1973)	6 5 8
(132)	福田純監督『ゴジラ対メカゴジラ』 (1974, 映画)	6 6 1
(133)	吉田竜夫・タツノコプロ企画室原作／ 鳥海永行監督『破裏拳ポリマー』(1974, TV 放映開始)	6 6 2
(134)	石森章太郎『がんばれ!! ロボコン』 (1974, TV 放映開始)	6 6 3
(135)	松本零士監督『宇宙戦艦ヤマト』(1974, TV 放映開始)	6 6 3
(136)	永井豪・石川賢監督『ゲッターロボ』 (1974, TV 放映開始)	6 6 4
(137)	リチャード・A・コーラ監督『人造人 間クエスター』(1974, 映画)	6 6 4
(138)	ブライマン・フォーブス監督『ステップ	



	フォードの妻たち』(1975, 映画)	6 6 4
(139)	川内康範原作『正義のシンボル コン ドールマン』(1975, TV 放映開始)	6 6 5
(140)	豊田有恒「サイボーグ王女」(1975)	6 6 6
(141)	鈴木良武原作／富野喜幸・長浜忠夫監 督『勇者ライディーン』(1975, TV 放映 開始)	6 6 9
(142)	石森章太郎原作『秘密戦隊ゴレンジャ ー』(1975, TV 放映開始)	6 6 9
(143)	竜の子プロ企画原作／笹川ひろし・鳥 海永行総監督『宇宙の騎士テッカマン』 (1975, TV 放映開始)	6 8 0
(144)	タツノコプロ企画室原作／笹川ひろし 監督『タイムボカン』(1975, TV 放映 開始)	6 8 1
(145)	『鋼鉄ジーグ』(1975, TV 放映開始)	6 8 2
(146)	梶原一騎原作／桑田次郎作画「ゴッド アーム」(1976)	6 8 2
(147)	アイザック・アシモフ&ロボート・シ ルヴァーバーグ『ポジトロニック・マ ン』(『バイセンテニアル・マン』(1976)	6 8 3
(148)	八手三郎原作／長浜忠夫総監督『超電 磁ロボコン・バトラーV』(1976, TV 放映開始)	6 9 6
(149)	石川英輔『SF 西遊記』(1976)	6 9 6
(150)	ケネス・ジョンソン監督『地上最強の 美女バイオニック・ジェミー』(1976- 1978, TV 放映)	6 9 8
(151)	ジョージ・ルーカス監督『スター・ウ ォーズ』(1977, 映画)	6 9 8

(152) 小隅黎『北極シティーの反乱』(1977)	7 0 0
(153) 『超電磁ロボ ボルテス V』(1977, TV 放映開始)	7 0 5
(154) 『超人戦隊バラタック』(1977, TV 放映 開始)	7 0 5
(155) 矢野徹「サイボーグ少年」(1977)	7 0 6
(156) 矢野徹「トロン反乱」(1977)	7 0 7
(157) 矢野徹『幽霊ロボット』(1977)	7 0 9
(158) 富野喜幸総監督『無敵超人ザンボット 3』(1977, TV 放映開始)	7 1 1
(159) グレン・A・ラーソン制作総指揮／クリ スチャン・I・ニービ・ジュニア監督 『宇宙空母ギャラクティカ』(1978 - 1979, TV ドラマ化)	7 1 1
(160) 吉川惣司監督『ルパン三世 ルパン VS 複製人間』(1978, 映画)	7 1 2
(161) 松本零士『銀河鉄道 999』(1978, TV 放映開始)	7 1 3
(162) 富野喜幸監督『機動戦士ガンダム』 (1979, TV 放映開始)	7 1 3
(163) 新谷かおる『試作番号 3000』(1979, マンガ)	7 1 8
(164) 富野喜幸総監督『伝説巨神イデオン』 (1980, TV 放映開始)	7 2 0
(165) 鳥山明『Dr.スランプ アラレちゃん』 (1981, TV 放映開始)	7 2 2
(166) 横山光輝原作／今沢哲男監督『六神合体 ゴッドマーズ』(1981, TV 放映開始)	7 2 2
(167) 高橋良輔・星山博之原作『太陽の牙ダグ ラム』(1981, TV 放映開始)	7 2 3

- (168) リドリー・スコット監督『ブレード・ランナー』(1982, 映画) 7 2 4
- (169) スタジオぬえ原作／アートランド(原作協力)『超時空要塞マクロス』(1982, TV 放映開始) 7 2 5
- (170) 寺沢武一原作／出崎純監督『Space Adventure コブラ』(1982) 7 2 6
- (171) レイ・ブラッドベリ『歌おう、感電するほどの喜びを!』(1982, アメリカ TV 放映) 7 2 6
- (172) 牛次郎・神矢みのる原作『プラレス3 四郎』(1983, TV 放映開始) 7 2 7
- (173) 石川英輔『人造人間株式会社』(1983) 7 2 8
- (174) 『ゴボッツ』(1984, TV 放映開始) 7 3 3
- (175) ジェームズ・キャメロン監督『ターミネーター』(1984, 映画) 7 3 4
- (176) 石川英輔『プロジェクト・ゼロ』(1984) 7 3 4
- (177) ウィリアム・ギブソン『ニューマンサー』(1984) 7 3 7
- (178) ロッキー・モートン、アナベル・ヤンケル監督『電腦ネットワーク 23』(1985) 7 4 1
- (179) 石黒昇監督『メガゾーン 23』(1986, OVA) 7 4 2
- (180) ジェームズ・キャメロン監督『エイリアン 2』(1986, 映画) 7 4 3
- (181) ジョン・クロード・ロード監督『悪魔の改造人間』(1986, 映画) 7 4 5
- (182) 矢野徹『ロボット』(1986) 7 4 6
- (183) 鳥山明『ドラゴンボール』(1986, TV

放映開始)	7 5 0
(184) 車田正美原作『聖闘士星矢』(1986, TV 放映開始)	7 5 3
(185) ポール・バーホーベン監督『ロボコッ プ』(1987,映画)	7 5 4
(186) 押井守『機動警察パトレイバー』(1988, OVA)	7 5 4
注	7 5 6

.....

後編

第4章 文学・マンガ・アニメ・映像上の人造人間・ロボット・

アンドロイド・サイボーグ (1990 年以降)	7 8 7
(187) ティム・パートン監督『シザーハンズ』 (1990, 映画)	7 8 7
(188) 山田正紀『機神兵団』(1990,マンガ連 載開始)	7 8 7
(189) 木城ゆきと『銃夢』(1990 連載開始, 1993, OVA)	7 9 1
(190) エイミー・トムスン『ヴァーチャル・ ガール』(1993)	7 9 2
(191) 矢立肇原作／アミノテツロー監督『疾 風！アイアンリーガー』(1993, TV 放 映開始)	7 9 8
(192) 河森正治総監督『マクロスプラス』 (1994, OVA)	7 9 8
(193) 庵野秀明『新世紀エヴァンゲリオン』 (1995 放映開始, TV 放映開始)	8 0 0
(194) 押井守監督『GHOST IN THE SHELL/ 攻殻機動隊』(1995)	8 0 0

- (195) 柳原望『まるいちの風景』(1995,  
マンガ) 803
- (196) ウィリアム・ギブスン『あいどる』  
(1996) 805
- (197) ブラッド・バード監督『アイアン・ジャ  
イアント』(1999, 映画) 810
- (198) 加戸誉夫監督『ゾイド-ZOIDS』  
(1999, TV 放映開始) 810
- (199) 尾田栄一郎原作『ONE PIECE』  
(1999, TV 放映開始) 811
- (200) スティーブン・スピルバーグ監督  
『A.I.』(2001) 812
- (201) 高橋しん原作/加瀬充子監督『彼女最  
終兵器』(2002, TV 放映開始) 812
- (202) 有森丈時原作/葵ろむ画/浜津守監督  
『アソボット戦記五九』(2002, TV 放  
映開始) 813
- (203) 荒川弘『鋼の錬金術師』(2003, TV  
放映開始/2009, 再アニメ化) 814
- (204) BONES 原作/京田知己監督『交響詩  
篇エウレカセブン』(2005, TV 放映開  
始) 815
- (205) クリス・ウェッジ監督『ロボッツ』  
(2005, 映画) 815
- (206) 山本弘『アイの物語』(2006) 816
- (207) マイケル・ベイ監督『トランスフォー  
マー』(2007, 映画) 818
- (208) ジョン・ファヴロー監督『アイアンマ  
ン』(2008, 映画) 820
- (209) アンドリュー・スタントン監督『ウォ

ーリー』(2008, 映画)	8 2 0
(210) 渡瀬悠宇原作『絶対彼氏』(2008, TV 放映開始)	8 2 1
(211) 郭在容監督『僕の彼女はサイボーグ』 (2008, 映画)	8 2 1
(212) 吉浦康裕原作・脚本・演出・監督『イヴ の時間』(インターネット公開、2008)	8 2 2
(213) 奥田鉄人『人造人間エルヴィス』 (2008)	8 2 3
(214) ジェームズ・キャメロン監督『アバタ ー』(2009, 映画)	8 2 5
(215) 井口昇監督『ロボ芸者』(2009, 映画)	8 2 5
(216) シャンカーン監督『ロボット』(2010, 映画)	8 2 6
(217) 木皿泉脚本『Q10』(2010, TV 放映 開始)	8 2 7
(218) ショーン・レヴィ監督『リアル・ステ イール』(2011, 映画)	8 2 7
(219) キケ・マイーリュ監督『エヴァ』(2011, 映画)	8 2 8
(220) 島袋光年原作『トリコ』(2011, TV 放映 開始)	8 2 9
(221) 矢口史靖監督『ロボジー』(2012, 映画)	8 3 0
(222) ジェイク・シュライアー監督『素敵なお 棒〜フランクじいさんとロボットヘルパ ー』(2012, 映画)	8 3 0
(223) 長谷敏司『BEATLESS』(2012)	8 3 1
(224) ギレルモ・デル・トロ監督『パシフィッ ク・リム』(2013, 映画)	8 4 3

- (225) ニール・ブロムカンプ監督『エリジウム』  
(2013, 映画) 8 4 4
- (226) 西荻弓絵・泉澤陽子脚本『安堂ロイド～  
A.I. knows LOVE?～』(2013, TV 放映  
開始) 8 4 5
- (227) ドン・ホール／クリス・ウィリアムズ監  
督『ベイマックス』(2014, 映画) 8 4 6
- (228) ジョン・ライト監督『スティールワール  
ド』(2014, 映画) 8 4 6
- (229) ガベ・イバニェス監督『オートマタ』  
(2014, 映画) 8 4 6
- (230) ウォーリー・フィスター監督『トランセン  
デンス』(2014) 8 4 7
- (231) ニール・ブロムカンプ監督『チャッピー』  
(2015, 映画) 8 4 7
- (232) アレックス・ガーランド監督『エクス・  
マキナ』(2015, 映画) 8 4 8
- (233) デボラ・インストール『ロボット・イン・  
ザ・ガーデン』(2015) 8 4 9
- (234) 西尾仁紀『人間工場』(2017, マンガ連  
載) 8 5 0
- (235) 山田悠介『僕はロボットごしの気に恋を  
する』(2017) 8 5 2
- (236) 谷口悟朗監督『ID-0』(2017, TV 放映) 8 5 5
- (237) 池添隆博監督『新幹線変形ロボ シンカ  
リオン』(2018) 8 5 6
- (238) 佐藤信介監督『いぬやしき』(2018, 映画) 8 5 7
- (239) 島田虎之介『ロボ・サピエンス前史』(2018  
連載開始, マンガ) 8 5 8
- (240) ロボート・ロドリゲス監督『アリタ : バ

	トル・エンジェル』(2019, 映画)	859
	注	860
第5章	科学とテレビアニメ	867
	(1) テーマとしての科学	867
	(2) テレビアニメとスポンサー	869
	(3) 第4次産業革命	876
	(4) Society5.0	883
	注	884
第6章	人造人間としてのクローン	887
	(1) クローンとは何か	887
	(2) 生命倫理の問題	889
	(3) 吉川惣司監督『ルパン三世 ルパン VS 複製人間』(1978, 映画)	890
	(4) カズオ・イシグロ『私を離さないで』 (2005)	891
	(5) 再生技術としてのクローン	895
	注	898
第7章	ロボットと共に生きる社会	900
	(1) 超少子高齢社会	900
	(2) 社会と人工知能	908
	(3) 人工知能か、人間性か	912
	(4) フランケンシュタイン・コンプレックスから アシモフの「ロボット工学三原則」と手塚治 虫の「ロボット法」	917
	(5) シンギュラリティと今後の教育	923
	[1] シンギュラリティ	923
	① Ray Kurzweil. <i>The Singularity</i>	



	<i>Is Near: When Humans Transcend Biology</i> (2006)	9 2 5
②	Martin Ford. <i>Rise of the Robots</i> (2015)	9 2 9
③	平野晋『ロボット法』(2017)	9 3 2
④	中島秀之・丸山宏編『人工知能』 (2018)	9 3 3
[2]	ポストヒューマニズム	9 3 6
①	Rosi Braidotti. <i>The Post- human</i> (2013)	9 3 8
②	川津雅江「イット・ナラティヴ とポストヒューマニズム」(2018)	9 4 3
[3]	トランスヒューマニズム	9 4 5
①	Mark O'Connell. <i>To Be a Machine: Adventures Among Cyborgs, Utopians, Hackers, and the Futurists Solving the Modest Problem of Death</i> (2017)	9 4 9
②	Newton Lee, editor. <i>The Transhumanism Handbook</i> (2020)	9 5 3
[4]	今後の教育の行方	9 5 6
(6)	新しいテクノロジーの社会	9 5 7
[1]	Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne “The Future of Employment: How susceptible are jobs to computerization?” (2013)	9 6 0
[2]	Martin Ford. <i>Rise of the Robots</i> (2015)	9 6 4
[3]	水野操『あと 20 年でなくなる 50 の仕事』(2015)	9 7 4

[4] MiKinsey Global Institute. <i>A Future that Works</i> (2017)	977
[5] 秋山龍馬『超ロボット化社会』(2018)	980
[6] 工藤俊亮・角田美穂子編『ロボットと生きる社会』(2018)	985
[7] 鈴木貴之『100年後の世界』(2018)	986
(7) SDGs	990
注	993
関連年表	1004
あとがき	1034

## はじめに

本書は拙著『文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』（前編）（後編）（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2019年4月）、同書の内容を収録した『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補』（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2020年4月）〔電子書籍(PDF)〕の「第4章 文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ」を増補の上、改題し新たに『文芸上・映像上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』としたものである。資料の追加に伴い、第1章～第2章を前編、第3章～第4章を中編、第5章～第7章を後編として3分冊とした。なお、第3章～第4章は「文学・マンガ・アニメ・映像上の人造人間・ロボット・サンドロイド・サイボーグ」であり、作品別の紹介である。増補の段階で取り上げる作品やそれに関連する記述が増えたために前編、中編、後編となった。もともとは『ロボット100年 文学・マンガ・アニメ・映像』（2018）、『文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ』（全2冊）（2019）、そして本書へとそのおもな変遷は以下の通りである。

### 第2章 定義としてのロボットを考える

（7）ロボットの研究 [1] ～ [9] (2018)

[7] SFとロボット・サイボーグの研究①～⑳ (2019)

[8] SFとロボット・サイボーグの研究①～㉔ (本書)

### 第3章 文学・マンガ・アニメ・映像のロボット 1～112 (2018)

#### 第3章～第4章 文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ

(1) ～ (201) (2019)

#### 第3章～第4章 文芸上の人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ

(1) ～ (240) (本書)

第2章については当初から5倍程度増補し、当初の第3章に相当する箇所は当初から2倍以上増補されている。

本書がすべての「人造人間・ロボット・アンドロイド・サイボーグ」を扱っているわけではない。あくまでも日本を中心にしたもので、マンガ・アニメ大国ニッポンのロボットマンガを中心にした。筆者の好みにより取捨選択されているものもかなりある。最近では子どもが見るテレビ番組でも AI やシンギュラリティなどの言葉が平気に登場している。令和になって始まった『仮面ライダーゼロワン』などはまさにその典型である。今回の改題後の内容ではパワードスーツについても取り上げた。

なお、読みやすさを重視したために、一部引用を含め、表記を新カナ、漢数字を算用数字等に改めたものが多くあることをお断りしておきたい。

著 者